

【世界各国の地熱資源量】

順位	国名	資源量(万kW)
1	アメリカ	3,900
2	インドネシア	2,700
3	日本	2,300
4	フィリピン	600
5	メキシコ	600
6	アイスランド	580
7	ニュージーランド	370
8	イタリア	150

独立行政法人石油天然ガス・金融鉱物資源機構
HP掲載資料を基に作成

【世界各国の地熱発電設備容量】

順位	国名	設備容量(MW)
1	アメリカ	372
2	フィリピン	193
3	インドネシア	186
4	トルコ	106
5	ニュージーランド	98
6	メキシコ	92
7	イタリア	92
8	アイスランド	71
9	ケニア	68
10	日本	55

BP「Statistical Review of World Energy 2018」を基に作成

なぜ学校が必要なのか？

沼田…日本は地熱エネルギーの資源量が世界3位であり、世界でも有数の地熱資源大国ですが、地熱発電設備容量では、世界第10位と出遅れています。なぜ10位かと言

いますと、掘削技術者の不足です。また、日本の地熱発電設備容量はあまり変わりませんが、発電電力は年々減少しています。これが現実なのですが、学校ができれば多くは解決すると思います。

掘削技術専門学校を
まちづくりにつなげる

棚野…本町に教育施設の立地がかなうという事は、なかなかないことです。町にとっては、これからのまちづくりの、そしてまた地域活性化の大きな手段になっていくと思っています。また、この専門学校をいかにまちづくりにつなげていくか、ということをしつかりやっていかなければならないと思っています。

北海道の基幹産業は一次産業であり、一次産業を振興するためには、物流とエネルギーをいかに安くするか、ということが今後の大きな課題となっています。そういう中で、本町は農業、漁業、林産業において、安いエネルギーを投入することが『第一次産業の再興と振興につながる』という考えのもとで、再生可能エネルギーに注目したまちづくりをしてきました。ありがたいことに本町は、太陽



町おこしエネルギー沼田昭二社長

光に恵まれたまちです。おかげさまで太陽光発電でまちづくりをおこなっています。そして、神戸物産にはバイオマス発電所を稼働していただきました。本町では、水素の実証実験も行っていますので、残るは地熱発電と風力発電になります。この2つは厳しいと思っていたのですが、そういう中で掘削のお話を沼田社長からいろいろと聞きました。その中で地熱発電の可能性があることを知りました。さまざまな諸条件はありますが、『本町に学校を作っていただきたい』ということをお願いしました。本町にとって、また地熱業界にとっても『ここに立地して良か

ったな』と言っていただけのように、町としても、できる限り応援したいと思っています。

Qさまざまな条件がある中で、白糠町を選んだ理由は何ですか。

沼田…まずは白糠町との信頼関係です。町のバックアップがなければ、時間ばかりかかって、仕事がスムーズに進みません。町が全体を考えて、バックアップしてくださるというのが一番大きいです。

二つ目は、広い土地があるということ。たとえば、10トンのロータリー車だけで40台。それだけ大きな重機ですから一つ間違えれば大事故になります。そういうものを実技で安全に使用できる場所がありませんでした。また、コアというものが入っている石の塊を何十個も使用するのですが、それを置いておく場所も必要になります。

三つ目は、いろいろなところで試掘するのですが、たとえば二酸化炭素のガスなどが出てくる場合があります。道東に何カ所かそういう場所があるのですが、実際にそういう危険な場所に行って、安全を確保したうえで実技ができる。そういう場所があるのは、私